

(一社) 日本自動認識システム協会会員各位
RFID機器取扱者各位

920MHz帯RFID機器が植込み型医療機器等に 与える影響に関して

(平成27年度調査結果の情報共有)

平成28年4月01日Rev. 01

(一社)日本自動認識システム協会 研究開発センター

1. 平成27年度総務省事業として、「電波の医療機器等*1への影響に関する調査」を実施した。
2. 平成27年度は、920MHz帯RFID（構内無線局及び特定小電力無線局）に関してJAISAも協力し調査を実施した。
3. 調査結果は、920MHz帯RFIDが医療機器等へ影響を与える最大距離が10cmであり、これは、現状総務省指針により提示されている通常のRFIDの必要離隔距離22cmで十分カバーできる数値でした。
4. 従って、今後の出荷品に関して現状のハートマーク貼付による半径1mへの立入り制限を解除し、平成28年4月1日出荷分より通常のRFIDステッカand/orゲートマークのみの表示に変更する。

*1：医療機器等とは、植込み型心臓ペースメーカ及び植込み型除細動器を示す。

平成28年3月31日に総務省HPに掲載された報告書（URL）です。

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/seitai/chis/index.htm>

920MHz帯RFIDに関するまとめ（報告書32ページ4.4項抜粋）

- (1) **920MHz帯RFID機器**による植込み型医療機器に対する最大影響発生距離は、構内無線局を含めすべて**10cm以内**であり、平成18年度調査の高出力型950MHz帯RFID機器での影響測定結果約75cmと比較して、影響発生距離が**大きく減少していることが確認**された。
- (2) 高出力型950MHz帯RFID機器・据置きタイプ以外のRFID機器に対して適用されている**現行指針の離隔距離22cm**に照らしても、**920MHz帯RFID機器は安全マージンを考慮した上でも指針の要求を十分満たしている**といえる。

950MHz帯RFIDに関するまとめ（報告書32ページ4.4項抜粋）

950MHz帯RFID機器に関しては、周波数移行促進措置が着実に進められており、残る機器の利用者においても利用状況が把握された上で移行に向けた準備が進められている。平成18年度調査で影響が発生した医療機器に関しても、バッテリー切れに伴う交換等により当該機器を利用する患者数は少なくなっていると推計されるが、患者の安全を重視し、周波数移行期限まで、既存の指針に従った**影響防止の対策が確実に実施されること**が望まれる。

ハートマークに関する対応方針

ハートマークを貼付して出荷済みのRFID機器には、現状下記の2種類がある。
総務省調査事業の結果を受けて、今後の出荷品を含めそれぞれの状況に合わせて、ハートマークの取扱いを以下のように行う。

(1) 950MHz帯RFID 構内無線局（据置き型） 既出荷品で、周波数移行対象品

【ハートマーク対策】

* 平成30年3月末に、全ての950MHz帯RFID（高出力・据置き型）が廃局になるまで、現状のままハートマークを掲示する。

(2) 920MHz帯RFID 構内無線局（据置き型） 既出荷品

【ハートマーク対策】

* 既出荷品に関しては、リプレースや、保守等の機会にハートマークの削除に努める。

平成28年4月1日以降出荷するもの

(1) 920MHz帯RFID 構内無線局

【ハートマーク対策】

* 業界自主規制であるハートマーク貼付を中止し、JAISAステッカand/orゲートマークのみとする。

平成28年4月吉日

一般社団法人日本自動認識システム協会 (JAISA)

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7階

TEL. 03-5825-6651 (代) FAX. 03-5825-6653

<http://www.jaisa.or.jp/>